

令和5年3月10日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」  
第74回（通算第153回）定例会 会議録

- ◆日時：令和5年2月21日（火） PM7：10～8：30  
◆場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室  
◆出席者：24名 +オンライン 4名

別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：10～20：30】

19：10～ 開 会

19：10～19：40

講 演

「いのちに触れる」

～夫の見送りを通して感じたこと～

講師：（一社）日本触れる勇気づけ協会

代表理事

原 美穂氏

19：40～20：15

質疑応答・意見交換

20：15～20：30

発 表

20：30

閉 会

○キーワード：原さんの言葉より

- ・自分が支えられることで、人を支えられる
- ・その人（支援する対象者）が失ったものが何かを考える
- ・家族の心理として、亡くなったときだけでなく、病気の途中でも悲嘆は大きい。喪失の反応は起きている。
- ・今あるものをすごく大切に。その時間に集中してほしい。

## 【意見交換】

### ○質問

- ・ どのような人との出会いがあつて、ここまできたのか  
⇒ いろいろな人に会いにいった。一番身近で支えてくれたのは母親だった。  
ジャッジのない人に救われた。  
それぞれが、それぞれで”ある”人たちの中、自分らしくあることが、今の活動につながっている。
- ・ かけられて安心した言葉は？ どのような接し方をしてほしいか？  
⇒ この言葉というより、その”ひと”  
一歩踏み込んでもらえて助かった経験はある  
そっとしておいてくれた人も、踏み込んでくれた人もいろいろ感謝している。
- ・ 看取り士の役割って？  
⇒ 亡くなる前後を通じて看取る時の作法  
亡くなるひとと家族が息をあわせて死を迎える作法

### ○感想

- ・ 病気は年齢によって受け取り方が違う。
- ・ 仕事をしながら闘病をするのは大変だとあらためて気づいた。
- ・ 傾聴の大切さ
- ・ ”死んだらどうなる”ということをお子たちに伝えるのが難しい。
- ・ 在宅看取り → 家族の理解が大切
- ・ 病院としては、在宅で生活している家族のケアは難しい
- ・ グリーフケア。支援をしていて亡くなったひとのご家族全員には会えていない。タイミングや喪失感の強い人や不安感の強い人にどこまで関わられるか不安。  
⇒ 気持ちを出せるような場所があるといい  
引くタイミングでつなぎ先を紹介するとか、ずっとかかわってくれた人から言われると行動に移せると思う。  
語り場；グリーフ専門士協会の取り組み。オンラインでやっている
- ・ ねぎらいの言葉  
⇒ プロのひとからかけられる言葉は、癒しであり、パワーになる。

### ※定例会開催にあたっての感染症対策

- ・ 体調確認と必要に応じて非接触型温度計による体温測定
- ・ 手指消毒・換気
- ・ マスク着用
- ・ ZOOMを活用したオンライン研修

## 【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

**日時**：令和5年3月14日（火） 午後7時～

**場所**：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室

**内容**：研修：上富田町に依頼中